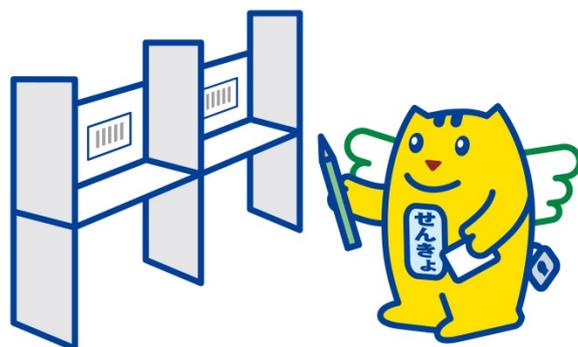


# 主権者教育のための成人用参加型学習教材

(平成27年度版)



参加型学習教材研究会

2016年3月

## はじめに

選挙は、民主政治の基盤をなすもので、選挙が公正に行われなければその健全な発達を期することはできません。このことは、国民一人ひとりが、政治や選挙に十分な関心を持ち、候補者の人物や政見、政党の政策を判断できる目を持ち、自分の一票を進んで投票することをもってはじめて達成できるものです。そのためには、選挙時だけでなく常日頃からあらゆる機会を通じて、政治・選挙に関する国民の意識の醸成、向上を図っていくことが重要です。公職選挙法第6条は、総務大臣及び選挙管理委員会は「選挙が公明かつ適正に行われるように常にあらゆる機会を通じて選挙人の政治常識の向上に努めなければならない」と規定し、「常時啓発」を国及び選挙管理委員会の責務としています。ただ、このような大きな任務は、総務省と選挙管理委員会だけで果たせるものではないので、他の機関や明るい選挙推進協議会などの民間団体の協力を得て進められています。総務省は平成23年、時代に即した常時啓発のあり方を探るために「常時啓発事業のあり方等研究会」を設置し、同年12月に研究会の最終報告書が提出されました。最終報告書は、これからの常時啓発の方向として「主権者教育」、すなわち「あらゆる世代を通じて、社会に参加し、自ら考え、自ら判断する主権者を作ること」を提唱し、その一環として、「参加型学習」の必要性を提案しています。学校教育における児童・生徒を対象とした参加型学習については、多くの教材が出されていますが、大人を対象としたものは、数が限られています。この教材集は主として成人を対象に、主権者教育に資する参加型学習の教材を提供するものです。

平成24年度、25年度に続くもので、今年度は4教材を掲載しております。地域における常時啓発の研修会などで活用いただけたら幸いです。なお、作成にあたりましては、明治大学文学部特任教授の藤井剛さん、立命館宇治中学校・高等学校教諭の杉浦真理さん、岡山大学地域総合研究センター助教の岩淵泰さん、カフェフィロ代表の松川絵里さん、NPO法人YouthCreate代表の原田謙介さんのご指導、ご協力をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

平成28年3月

## 目次

教材の概要 . . . . .	4 頁
教材の概要	
4つの教材の使用方法的イメージ	
教材1「哲学カフェをやってみよう！」 . . . . .	6 頁
教材2「有権者リーダーをつくろう！」 . . . . .	16 頁
教材3「暮らしを任せられる政党を見つけよう」 . . . . .	27 頁
教材4「政党をつくって政策論争をしてみよう」 . . . . .	43 頁
教材執筆者の紹介 . . . . .	67 頁

## 教材の概要

### 教材1「哲学カフェをやってみよう！」

哲学カフェは、進行役がいて、日常生活や科学、芸術などさまざまなテーマを設け、その場にいる人たちが話して聞いて考えるというシンプルな作り。特別な知識を必要とするものではありません。方法に決まった定義はないので、徹底討論する、じっくり対話を進めるやり方もあるし、テーマについてもその場で募る、進行役が提示するなどの進め方があります。

### 教材2「有権者レーダーをつくろう！」

「政策メガネを使おう」「政策マップをつくろう」「有権者ジャーニーマップをつくろう」「有権者レーダーをつくろう」の一連のワークを通じて、個々の政策には様々な人・モノ・でき事が関わっていることを理解し、政党や政策を比較するときに自分に関わりのある政策分野を考え、自分が大切にしたい軸を見つけ、マニフェストを主体的に読み比べることができるようにするものです。

### 教材3「暮らしを任せられる政党を見つけよう」

政党をつくるというプロセスを通じて、社会の課題と政府の関わりを考えます。この教材では「暮らし」を題材に政党をつくり、参加者それぞれに与えられた役割に即して議論、討論することによって政治的教養を深め、選挙時の投票選択の基準の一つを考える機会を提供するものです。

### 教材4「政党をつくって政策論争をしてみよう」

政策上の対立軸を2つ設定し、参加者は4つの政党に分かれ、政党ごとに党首、大臣などの役割分担を行い、それぞれマニフェストをつくります。マニフェストをもとに政策論争を行い、主権者役が投票すると同時にアドバイス表に記入し、論争を行った政党に渡します。投票で、政策や論争の優劣を競うとともに、各党はアドバイス表をもとに自党の政策をふりかえます。

## 4つの教材の使用法のイメージ

教材1は、いろいろな話題をテーマに話し合うことの楽しさや意義を紹介するものです。社会問題や政治・選挙を話題に、日常的に話し合うことはなかなかできませんが、民主政治は討論によって物事を決める政治であり、話し合いの政治です。健全な民主主義社会とは、身近な地域社会の小さな討論に始まり、いろいろな段階において討論が行われ、話し合いがもたれた上で、問題の解決、決定が図られる社会です。話し合いの一手法として哲学カフェを紹介します。

教材2は、教材3と教材4の前段的な位置づけで、身の回りのいろいろなことがすなわち政策課題であり、政治と結びついていることを意識させるものです。

教材3と教材4は、例示された政策をロールプレイ形式で考え、投票先を選択することを学ぶものです。教材3はシングルイシューの設定で政策課題を比較し、教材4は政策課題が複数設定された条件で考えるものです。

教材3と教材4を使用するにあたっては、25年度版の教材6「自分たちの理想を実現する政党づくり」も参考にしてください。

なお、参加型学習の定義、一般的な参加型学習の手法については、24年度版を参照してください。

## 主権者教育のための成人用参加型学習教材(平成24年度版・25年度版)

総務省ウェブサイトに掲載されています。

[http://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo\\_s/news/sonota/gakusyu/index.html](http://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo_s/news/sonota/gakusyu/index.html)

## 教材 1「哲学カフェをやってみよう！」

哲学カフェは、情報伝達や合意形成の場ではありません。その目的は、テーマについて話し、聞き、考えるという対話のプロセスそのものを楽しむことにあります。参加者は対話を楽しみながら、いわば副効用的に、一つのテーマについて多種多様な意見や論点、語り方があること、また、立場や意見の異なる他者とのコミュニケーションや共同の探求のために必要な姿勢を学びます。

### 1 哲学カフェとは？

哲学カフェとは、飲み物片手に進行役のサポートのもと、私たちの暮らしや社会に関わるテーマについて、参加者同士で話し合う営みです。1992年にフランス、パリのカフェで自然発生的に生まれ、その後、世界中に広がりました。日本では2000年ごろから行われるようになり、現在では全国100カ所以上の場所で行われていると言われています。

哲学カフェでは、その場に集まった参加者が主役となって議論をつくっていきます。進行役がセミナー講師のように知識を提供するわけでも、ワークショップのように道筋(手順)やゴールが予め決まっているわけでもありません。哲学カフェは伝達の場ではなく、発見し、探求する場です。それがうまくいくかどうかは実際にやってみなければわかりませんが、うまくいかないこともまた新たな発見につながるでしょう。



## 2 哲学カフェの構成要素

哲学カフェに、決まった定義や方法はありません。主催者や進行役によって、徹底的に討論する、ふだんのおしゃべりのようにフランクに話す、複数の論点や話題を行ったり来たりする、一つの論点を深く掘り下げる……など雰囲気も進め方も様々です。

とはいえ、開催のために不可欠な共通の要素として、以下を挙げる事ができるでしょう。これらの構成要素には、それぞれ様々な選択肢があります。

### (1) 落ち着いて話せる場所と時間

喫茶店、地域のコミュニティスペース、図書館や美術館に併設されたカフェテリアなど、基本的に誰もが自由に入出入り可能で、飲食が許されており、堅苦しくなく落ち着いて話し合える場所が良いでしょう。哲学カフェでは参加者の自発性を重視するので、できれば、参加者の都合や関心によって途中入退場が可能な場所が望ましいです。

時間は、週末など休みの日に2～3時間行われるのが一般的です。3時間の場合は疲れるので、途中で10～15分ほど休憩をはさむと良いでしょう。また、発言者が偏っている場合も、休憩をはさむと他の人が発言しやすくなり効果的です。平日夜に開く場合は、会社帰りに立ち寄りやすいよう、ビジネス街の近くやアクセスの良いところを選ぶと人が集まりやすくなります。

### (2) みんなで話し合えるテーマ

まず、テーマの決め方ですが、あらかじめ主催者や進行役によって決められたテーマの下に参加者が集まる場合と、当日集まった参加者にテーマを提案してもらって決める場合とがあります。定期的に哲学カフェが行われ、テーマに関わらず参加者が集まるような場合は、その場に集まった人たちが即興でテーマを設定することもできます。ただ、テーマを見て関心をもつ人も多いので、新しい参加者に来てほしい場合は、進行役があらかじめテーマを設定し、事前に告知しておくことをおすすめします。

テーマを選ぶときのポイントとしては、以下の3つを挙げることができます。



- ・日常生活と関連すること
- ・誰もがそれについて考えることができること
- ・シンプルで根本的な問いを含むこと

初めて参加する人の多い哲学カフェでは、「～とは何か」、「なぜ～か」といった問いのかたちをとる方が、参加者の関心が拡散せず、考えることに集中しやすくなります。ただし、ハウツー的な問いや、特殊な知識をもっていないと答えられないようなテーマは避けましょう。哲学カフェで重要なのは、〈知らないことを知るための問い〉ではなく、〈知っていることを改めて問うような問い〉です。例えば「学校とは何か？」や「人はなぜ怒るのか？」など、知っていることを改めて問う問いは、私たちの生活や会話を成り立たせている隠れた前提に目を向けさせてくれます。

哲学カフェを体験したことがない人のなかには、「2～3時間もあるのにたった一つのテーマで間が持つのか」、「一度に複数のテーマを取り上げたい」と思う人がいるかもしれません。しかし、哲学カフェでは、テーマを一つに絞るからこそ、思考を深めることが可能となります。頭のなかにある疑問や考えを洗い出し、自分の考えをふりかえったり、それぞれの意見を照らし合わせたりするには時間が必要です。テーマを選ぶときは、2～3時間かけてじっくり考えたいと思えるテーマを選びましょう。

参考 岡山大学まちなかキャンパス城下ステーションでの哲学カフェのテーマ例

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 「働きがいとは必要か？」 | 「ワークライフバランス」 |
| 「住みたいまち」     | 「偉人とは何か？」    |
| 「まちと公共性」     | 「学校とは何か？」    |
| 「アートと公共性」    | 「選ぶ人／選ばれる人」  |

### (3)対話をサポートする進行役

進行役をするのに、哲学者や哲学史に関する知識は必要ありません。必要なのは、相手の話を聞きながら慌てずゆっくり考えるという心構えです。

進行のやり方に正解はなく、参加者やテーマ、場所、進行役の個性などによって様々です。例えば、ひとりひとりの発言者と進行役で問答を繰り返す「問答型」。このタイプの進行役は、発言者それぞれの意見を一つ一つ吟味し、疑問を投げかけたり、ときには反論したりします。また、いわゆる「ファシリテーター」役に徹する進行役もいます。このタイプの進行役は、自分の意見は表明せず、参加者の発言を助けたり、発言の意味が明確か他の参加者に確認したり、複数の意見の関連を確認したりと、参加者同士の対話を促進させることを重視します。さらに、他の参加者と同じように対話に参加しながら議論を活性化させる、「参加型」の進行役もいます。

フランスでは、進行役は「アニメーター(animateur)」と呼ばれています。これは、「～を盛り上げる」、「～を活気づける」、「～に魂を吹き込む」といった意味を持つ animer という動詞から派生した言葉です。ともに考え対話を活性化させるために何ができるのか自分自身で考えること、そして何より進行役自身が目の前で繰り返される対話を楽しむことが大切です。

### (4)テーマに関心のある参加者

もちろん、参加者にも哲学者や哲学史の知識は不要です。テーマに関心があればどなたでも参加可能です。

哲学カフェにおいて、参加者は、主催者が提供するプログラムの「受け手」としてそこにいるというより、議論に参加することによって共に場をつくっていく「担い手」として存在します。参加者がいなければ企画が成立しないばかりか、同じテーマや素材でも、参加者の関わり方によってその場で論じられる内容は大きく変わってきます。

一度も発言せず他の人の発言に耳を傾ける参加者も例外ではありません。発言せずとも、その態度や反応によって発言者の発言に影響を与えることから、彼らもまた場の「担い手」とあるといえます。哲学カフェは、3人でも100人でもできますが、決まった時間で発言できる人数は限られます。「今日はじっくり考えることができ

たな」と感じる対話をふりかえると、どんなに参加者が多くとも、発言者数は自然と12人程度に収まっていることが多いようです。あまり多くの方が意見を述べると、話題や論点が拡散してしまい、せっかく浮かび上がってきた論点を十分に吟味できないまま時間が終わってしまいます。主催者や進行役が「なるべく多くの方の声を聞きたい」という場合はそれもかまいませんが、話すだけでなく「ともに考える」という体験をしたければ、発言者数にこだわるのはやめましょう。重要な意見や仮説を提示してくれた人が他の人より多く発言するのは、自然なことです。

適切な参加者数は、会場の広さや席数によっても変わってきますが、全員が発言し、かつ内容も充実させたいという場合は、定員を10～15人に設定すると良いでしょう。12人までなら、テーマについて全員が自分の意見を述べることができます。15人の場合は、全員が意見を述べるのは難しいので、最後に5～10分程度、感想を語り合う時間を設け、まだ話していない人に感想を述べてもらいましょう。

### 3 哲学カフェの流れ

#### (1)趣旨説明

最初に進行役から、簡単に趣旨説明と参加にあたっての注意点やお願いを述べます。哲学カフェが合意形成の場ではなく対話のプロセスを楽しむものであること、何をどういう順番で話すかは決まっておらず充実した時間になるかどうかは参加者次第であることを伝えておくといいでしょう。また、例えば以下のようなことを参加者にお願いしておく、進行の負担も減り、参加者も安心して参加しやすくなります。

発言する／しないは自由です。

自己紹介は不要です。

質問や反論は積極的に。

他の人の話は最後まで聞きましょう。

考えや信条の押しつけはやめましょう。

## **(2)テーマの提示**

次に、その日のテーマを提示します。事前に決まっている場合は、テーマを提案した人に、なぜそのテーマを取り上げようと思ったのかを話してもらおうと良いでしょう。当日テーマを決める場合は、参加者からテーマを提案してもらい、その中から選びます。進行役が独断で決めてもかまいませんし、多数決で決めてもかまいません。対話の時間が減り過ぎないように、10～15分程度で速やかに決めるようにしましょう。

## **(3)対話**

テーマを確認したら、進行役が参加者に発言を促し、いよいよ対話がスタートします。哲学カフェのなかで、参加者は単に自分の意見を述べるだけでなく、以下の作業を繰り返しながら、それぞれの主張や根拠について共同で吟味を行います。

### **①発言してみる。**

参加者は、テーマに関して思ったことや疑問などをとりあえず口に出してみます。

### **②発言のなかに含まれる主張や意見を確認する。**

意見や主張が明瞭でない場合には、進行役の助けを借りながら要点をまとめるなどして、発言に含まれる主張や意見を確認します。

### **③出された意見に対して意見を述べる。**

他の参加者の意見に対して、「先ほどの意見はこういうことだと思う」と解釈を述べたり、反論を述べたりします。

### **④自分の意見に対する意見を聞いて、どう思うか確認する。**

互いの意見の違いや他の参加者の言葉を通して必要があると感じたら、足りない要素を補ったり修正を加えたりしながら、最初の意見を語り直します。

#### ⑤意見の前提を問い返す。

それぞれの意見の前提や言葉の意味を明らかにしながら、主張や根拠について吟味します。

#### ⑥議論をふりかえる。

必要に応じて議論をふりかえり、自分たちがいま何をしているのか、これからどのように議論を進めるべきかを考えます。

### (4)進行役

進行役は以下のことを心がけながら、参加者が十分に主張や根拠を吟味できるようにサポートします。

#### ①意見の複数性をあぶりだす。

テーマについて十分に吟味するためには、議論が一部に偏らないようにすることが重要です。進行役は、「いまの意見と違う意見の人はいますか？」と反対の意見を引き出したり、「いまの意見は先ほど出た意見と同じですか？」と意見をつき合わせたり、ときには自ら異なる意見を提示したりして、意見の複数性をあぶりだします。また、長々と話し続ける人、何度も同じ発言を繰り返す人に対しては、発言の要点をまとめてもらうなどして、他の人の参加や発言を妨げないように配慮しましょう。

#### ②発言を引き受けさせる。

哲学カフェでは、自分の経験をもとに話すことが重視されます。しかし、参加者のなかには、自分の意見の代わりに本やメディアで見聞きした情報や知識を持ち出す人もいます。彼らは、理由や根拠を尋ねられても答えられないことが多く、自分の発言を自分で引き受けられていない状態にあるといえます。このような参加者に対しては、「なぜ、いまこのタイミングでそれを話そうと思ったのですか？」と尋ねてみるのも一つの手です。参加者が、自分の発言が議論のなかで持つ意味を自覚し、自分自身の発言を引き受けるきっかけとなります。

### ③吟味を促す。

進行役は、テーマについて考えるために足りない要素や検討が必要な論点を、その場の議論の状況から瞬時に判断し、参加者自身が考えられるよう促します。例えば、「どうして、それが『差別』なの?」、「『差別』と『区別』はどうちがうの?」と言葉の意味を尋ねたり、他の参加者に「いまの意見について質問はありませんか?」と問いかけたりします。また、議論の途中で、論点を整理したり、「いまの発言は先ほどの意見に対する反論ですか?」と尋ねたりして、参加者自身が議論の状況を自覚できるように仕向けます。

### ④複数の主張を拮抗させる。

哲学カフェは、単独で真理を追求するより、むしろ、複数の主張が拮抗し合うことによって「本当らしいもの」が浮かび上がってくる場です。例えば、「女らしさ、男らしさ」については、セクシュアルマイノリティも含め誰もが性別を帯びて生活しているため、中立的な立場や唯一の真理はありません。むしろ、立場の複数性やそれぞれの立場からみえる現実の差異こそが、「女らしさ」や「男らしさ」という現象や問題を構成していると考えられます。このような真理を浮かび上がらせるには、単に個々の意見がバラバラにあるのではなく、それぞれの主張が対抗し合いながら互いに屈せずある状況をつくりだすことが重要です。そこで進行役は、わざと反対の主張をつき合わせて参加者同士が弁論を闘わせるように仕向けたり、参加者の一人と一对一の議論を展開したりして、議論に簡単に決着がつかないようにします。

一回一回の議論の充実度は、以下の3点にかかっています。

テーマが人々の潜在的な関心に訴えることができるか

集まった人たちが自らの関心をもとにその場で即興的に議論を構築できるか

進行役はこの2点を考慮して適切に進行できるか

そのためには、もちろん、進行役による独善的なテーマ設定や進行法ではうまくいきません。参加者の声に耳を傾け、即興で繰り広げられる予想外の展開を楽しみましょう。

## (5) 終了のあいさつ

哲学カフェの最もシンプルな終わり方は、「時間がきたのでお開きにします」という進行役の一言です。参加者たちから「もっと話したい」という声が出るかもしれませんが、そう思わせることができれば哲学カフェは成功です。だらだら延長せず、時間通りに終了しましょう。

哲学カフェは合意形成の場ではないので、結論は不要です。しかし、可能であれば、最後に進行役からその日の話し合いのまとめを述べるとよいでしょう。どこが重要だと思うかは人それぞれなので、「ここが特に心に残りました」といった主観的な感想でも十分です。

## 4 哲学カフェと主権者教育～対話が生み出す21世紀の市民像

哲学カフェは、主権者教育を明白に意図して行われるものではありません。しかし、結果的に市民的素養のトレーニングになっている側面もあります。

哲学カフェが政治教育としての意義を持つために、必ずしもテーマが政治的である必要はありません。そして、テーマ設定の動機が政治的であるからといって、必ずしも対話の内容が政治的になるとはかぎりません。例えば、岡山大学のまちなかキャンパス城下ステーションで2013年3月に取り上げられた「安心とは何か？」というテーマは震災への関心から提案されました。しかし実際の対話では、「旅行から帰ってくるとほっとするのはなぜ?」、「防犯灯がついていると、かえって『ここって、そんなに危険なの?』と不安になる」といった全く別の話題から、「安心と安全は反比例の関係にあるのではないか」という興味深い議論が展開されました。政治的な関心から設定されたテーマであっても、対話が始まってみると参加者の個人的な経験談で盛り上がり、それがテーマについて新たな発見をもたらしてくれることは少なくありません。

哲学カフェの政治教育としての意義は、テーマではなく、むしろ、立場や意見の異なる多様な人と対等に話し合うという営みそのものにあります。同質性が高い友人・家族・同業者同士のおしゃべりとは異なり、初めて会う人々と信頼のある対話を経験することは、社会への関心を高め、人の意見に流されない自分の判断力を身につけることにつながります。

近年、教育やビジネスの場では、クリティカル・シンキングを身につけることが推奨されています。そこで重視されるのは、対象を客観的かつ論理的に捉える思考です。しかし、民主主義社会は、むしろ、多様な意見(主観性)が存在するという事実を受け入れることによってのみ可能となります。真にクリティカルな思考を実現するために、私たち市民は、他者の意見に耳を傾け、理解しようとする受容性・寛容性を身につけなければなりません。それは、決して「他者の意見に迎合する」ということではありません。哲学カフェでは、知識の量を試すのではなく、どのような考えが存在しているのかを重視するので、自由な語らいを通じて、参加者の立ち位置や考えが鮮明になっていくことがあります。そこで参加者は対話を通して、まちの中には多様でかつ異なる意見に溢れていることを体験的に学びます。また、他者との言葉や思考のやりとりを通じて、自分自身の思考を見つめ直すこととなります。

- ▷ 相手の伝えたいことをきちんと理解できているか？
- ▷ 自分の伝えたいことが相手に伝わる言葉になっているか？
- ▷ 自分の考えは本当に正しいか？
- ▷ それはどんな信念や価値観を前提としているか？
- ▷ 何か見落としている点はないか？
- ▷ 本当の問題は何か？

哲学とは、そのような思考と言葉の練り直しのプロセスそのもののなかにあります。そしてそのプロセスがそのまま、政治を考える大事なレッスンとなります。他者を理解し、他者とともに助け合いながらも、他者に迎合することなく、自分自身で考え、自分自身の言葉で語り、自分自身の言葉を引き受ける。哲学対話で求められるそのような態度こそ、市民に求められる政治的態度といえるのではないのでしょうか。

---

#### 参考文献

- 鷺田清一監修、カフェフィロ編『哲学カフェのつくりかた』(大阪大学出版会)
- マルク・ソーテ著『ソクラテスのカフェ』(紀伊国屋書店)
- 篠原一『市民の政治学』岩波新書

## 教材2 有権者レーダーをつくろう！

～政策を読み解く「自分の軸」探し～

マニフェストってどう読めばいいのだろう。政党や政策を比較するとき、自分に関わりのある政策分野を考えることや、自分が大切にしたい軸を見つけ、マニフェストを主体的に読み比べられるようになろう！というもの。自分なりの“こうなって欲しい日本の未来”を考えた上でマニフェストを読み解き、政治を自分ごとにするきっかけとする。地域にフォーカスしたもの。

### 1 学習の進め方

全体の流れと所要時間

- ・自己紹介・・・10分
- ・政策メガネをかけてみよう・・・30分
- ・政策マップをつくろう！・・・40分
- ・有権者ジャーニーマップをつくろう！・・・30分
- ・有権者レーダーをつくろう！・・・30分
- ・まとめ・・・20分

### 2 具体的な手順

#### (1)自己紹介・アイスブレイク(10分)

##### ①やること

- ・名前、ニックネーム、最近あった良いことと悪いことをA4用紙に書く。  
(5分)
- ・1人1分程度で自己紹介をする。(5分)

##### ②準備する物

- ・A4用紙
- ・マジックペン
- ・プロジェクター、スクリーン
- ・名札

## (2)政策メガネをかけてみよう(30分)

### ①やること

地域のいろいろな場面を撮影した写真を見ながら、身の回りの生活に潜んでいる政策を探し出す。つまり政策メガネをかけてまちを見る。

### ②ねらい

身の周りには「政策」があふれているので、身の周りから出発して「政策」を網羅的に捉える。

### ③準備する物

- ・小付箋紙
- ・付箋紙(黄色)
- ・模造紙
- ・駅前など街を映した写真数点(A4判拡大)

### ④進め方

#### ア 身の周りの「政策」(15分)

地域のいろいろな場面を撮影した写真を提示する。

・写真を見て、「これって政策と関わりそう」、という人・モノ・でき事をたくさん見つけて、小付箋紙を貼っていく。(5分)

・各グループが見つけた政策を発表し、全体で共有する。(10分)

多くの政策を出せたグループを勝ちとするなどゲーム性を持たせる。



この写真であれば、自転車が歩道からはみ出て道路に止められているから「道路の整備」「放置自転車対策」といった感じで付箋紙に書き出す。



この写真であれば、高齢者がいるから「高齢者向け政策」、ベビーカーを押している人がいるから「子育て政策」という感じで付箋紙に書き出す。

#### イ 政策あれこれ(15分)

##### ・個人ワーク(5分)

アの「身の周りの「政策」」ワークを参考にしながら、世の中に存在する「政策」を、思いつくかぎり付箋紙に書き出す。

道路整備、景観整備、公園整備、公共事業、教育、大学生、財政、福祉、教育といった大括りなもの、消費税増税、健康保険制度といった具体的なもの、共に可。

※参考になる本、行政の長期計画やホームページを参照しても良い。

##### ・グループワーク(10分)

書き出したものをグループ内で共有し、大カテゴリに○をつけながら、グルーピングする。

#### ウ 発表

- ・各グループで見つけた政策を1つずつ発表し、全体で共有する。
- ・出された政策について、実は国の政治と地域の政治の分類があることを示す。

#### エ ふりかえり

政策は身の周りにたくさんあること、国と地域の政治の分類を再確認する。

### ⑤注意すること

- ア 個人ワークが行き詰っているようであれば、流れでグループワークに移行して、グループで考えても良い。
- イ グルーピングの際は、政策分野(大カテゴリ)なのか政策(小カテゴリ)なのかを区別する。
- ウ 自分の関心のある政策を洗い出すとともに、他の人の関心のある政策を知り、「こんな政策もあるんだ」という気づきを得ることを目標にする。

## (3)政策マップをつくろう！(40分)

### ①やること

政策マップをつくって、政策と人・モノ・でき事を関連づける。

- ア 誰のため・何のための「政策」？(35分)
- イ 政策レクチャー(5分)

### ②ねらい

- ア 政策のステークホルダーを考え、政策についての理解を深める。
- イ 自分に関連すること以外にも、様々な人・モノ・でき事が関わっていることを実感する。

### ③準備する物

- ・ 付箋紙(ピンク色)
- ・ 模造紙
- ・ 政策レクチャー資料

### ④進め方

- ア 誰のため・何のための「政策」？
  - A (2)の「政策メガネ」で自分が出した政策の中から、一人一つを選択する。  
国の政治ではなく、地域の政治に関わるものを選ぶ。

B その政策に関係のある「人・モノ・でき事」を考え、思いつくだけ付箋紙に書き出す。個人ワーク(3分)

※注意すること

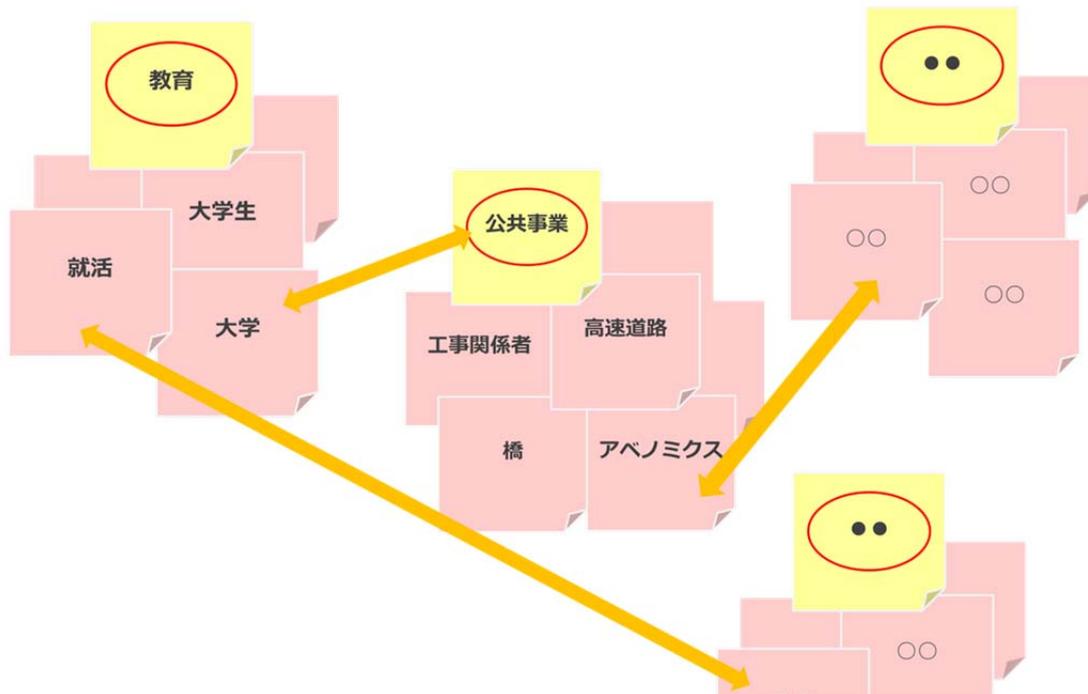
- ・「人」に関しては、子ども、お年寄り、失業者、外国人…などを想定。
- ・「モノ」に関しては、道路、病院、公園といったインフラや、結婚、出産、退職といったイベントを想定。

C グループで共有し、模造紙上にグルーピングして「政策マップ」をつくる。グループワーク(5分)

D A、B、Cを2回繰り返す。(25分)

E 似た政策、近い政策、関わる人・モノ・でき事が似ているなど、付箋紙をまとめたり、線をつないだりして「政策マップ」をまとめ直す。(10分)

## まとめ直して「政策マップ」完成



イ 政策レクチャー

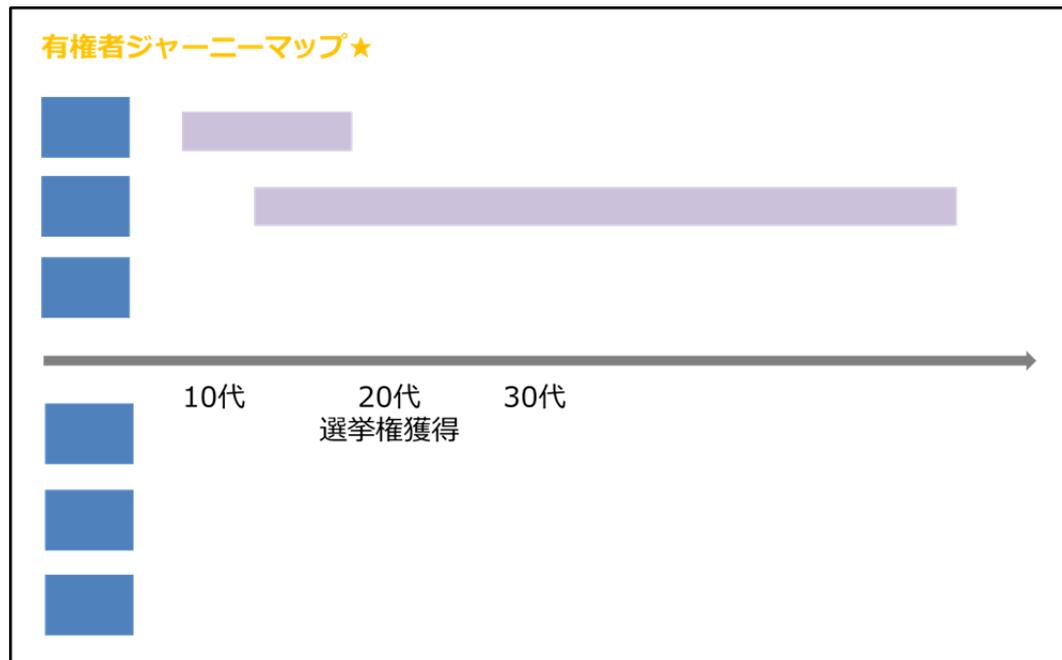
前半部のまとめとして、政策について確認する。(5分)

- ・身の周りの様々な人・モノ・でき事が関わっていること
- ・政策と政策分野について(大区分と小区分)
- ・だいたいの政策・政策分野(地方政治)

政策	政策分野	政策	政策分野
福祉	結婚	環境	ごみ
	出産		公害
	子育て		エネルギー
	高齢者	インフラ	道路・河川
	障がい者		公共交通
雇用	公共施設		
医療、保健、衛生	ライフライン		
防災、都市計画	IT		
教育	就学前	文化	芸術
	小学生		スポーツ
	中学生		地域活動
	高校生	経済	農業
	高等教育		工業
	生涯学習		商業
財政	地方税		観光業・サービス業
国際			

※政策・政策分野の分け方は、研修会を実施する当該地域の自治体の分け方等を参考にしてください。

#### (4)有権者ジャーニーマップをつくろう！ (30分)



##### ①ねらい

自分や自分の身の周りの人々の人生と政策のつながりを捉える。

年齢、世代、ライフステージごとに、そして人によって各政策・政策分野との関係性が異なることや、その面白さを知る。

「有権者ジャーニーマップ」を見ると、いま自分に直接関係のある政策のみならず、将来自分に関係しそうな政策も分かる。

##### ②準備する物

- ・ 模造紙
- ・ 紙テープ(リボン)
- ・ 自分の位置マーク(丸いシールなど)

##### ③進め方

ア 模造紙(横置き)の左側縦軸に政策・政策分野を置き、横軸に年代を示す。

イ 政策・政策分野を8つ選び、書き込む。(5分)

例えば医療、雇用、交通、教育、社会保障、自然環境、国際、防災・防犯、観光、経済、公共施設・設備、コミュニティなど。

ウ それぞれの政策・政策分野が、人生のどの場面(年代)で関わってくるかを考えて、紙テープを貼る。グループワーク(10分)

エ 自分の位置を確認し、シールを貼るなどしてマーキングする。その後、家族、友人など自分の身の周りの人の位置を確認する。個人ワーク(5分)

オ 各グループで作成した有権者ジャーニーマップを発表する。ほかのグループの有権者ジャーニーマップも見て、全体で共有する。(10分)

### (5)有権者レーダーをつくらう！ (30分)

② 関心度を10段階で評価し、点を記入→線で結ぶ  
\* ジャーニーマップで考えた、自分や自分の身の周りとの関連を考えつつ…  
③ とくに関心の高い政策ベスト3について、その理由を考え、言語化シールに記入し、貼る  
④ 3つの軸で分析する  
⑤ ほかの人に名づけてもらう

**分析**

★一つの政策に強い関心？  
多くの政策に関心？

← 一つ → 複数

★自分中心？社会中心？

← 自分 → 社会

★関心のある政策は似てる？違う？

← 似てる → 異なる

YouthCreate

#### ① やること

ア 政策を順位づける。

イ ベスト3を選び、なぜそれが大事かを文章化する。

ウ 分析

エ 命名

## ②ねらい

自分や自分の身の周りの人々との関連をヒントにして、投票の際の自分の軸を決める。

## ③準備する物

⇒ワークシート1「有権者レーダー」(26頁)

## ④進め方

ア 有権者ジャーニーマップで考えた政策を書き写す。

イ それぞれの関心度を10段階で評価し、点を記入して線で結ぶ。

\* ジャーニーマップで考えた、自分や自分の身の周りとの関連を考えつつ…

ウ 特に関心の高い3つの政策・政策分野について、その理由を考え(文章化)、付箋紙に書き出して貼る。

エ 3つの軸で分析(自己評価)する。

- ・ 1つの政策に突出して関心があるかどうか
- ・ 自分中心か社会中心か
- ・ 政策のばらけ具合(ここで政策マップを活用)

※ここまで個人ワーク(15分)

オ 「有権者レーダー」をグループ内で発表し、共有する。

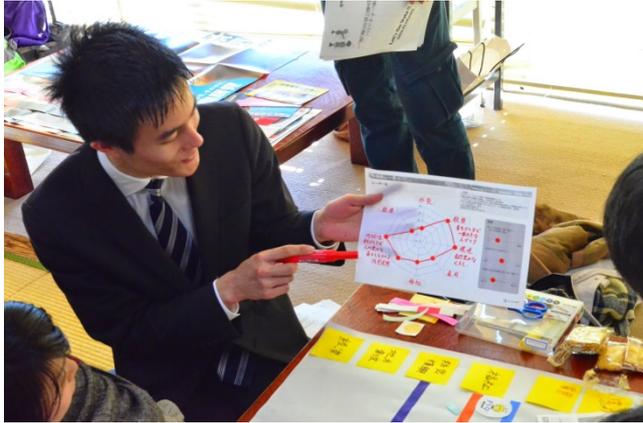
互いに質問をし合い、その人の「有権者レーダー」に反映された価値観に迫りながら、グループの人がその人の「有権者レーダー」にタイトルをつける。

グループワーク(15分)

## ⑤注意すること

ア もともとの関心、新たに気づいた関心を比較し、深め、投票の際の軸を「有権者レーダー」として定める。

イ さらに、他者に「有権者レーダー」のタイトルをつけてもらうことで、3つの軸に潜んでいる「政策を読み解くときの人生のテーマ」を浮き彫りにする。



## (6)まとめ

「身の周りは政策だらけ！政治・政策と自分の関わり、政策と自分のライフステージの関係を確認し、政策を読み解く自分の軸をつくる」

学んだことのおさらいとして、以下のことを確認する。(5分)

世の中には様々な政策があり、国・自治体によって異なる。知らないものがあれば、積極的に調べてみる。

自分とその政策のつながりは、政策に関連する人・モノ・でき事を通して感じることができる。政策の良し悪しの判断に困ったら、政策を人・モノ・でき事の観点から分解してみよう。

今回つくった「有権者レーダー」を参考に、受け身にならずに政治を読み解いてほしい。まずは自分の視点から、慣れてきたら周りの人・社会全体の視点から。

投票に行きましょう。

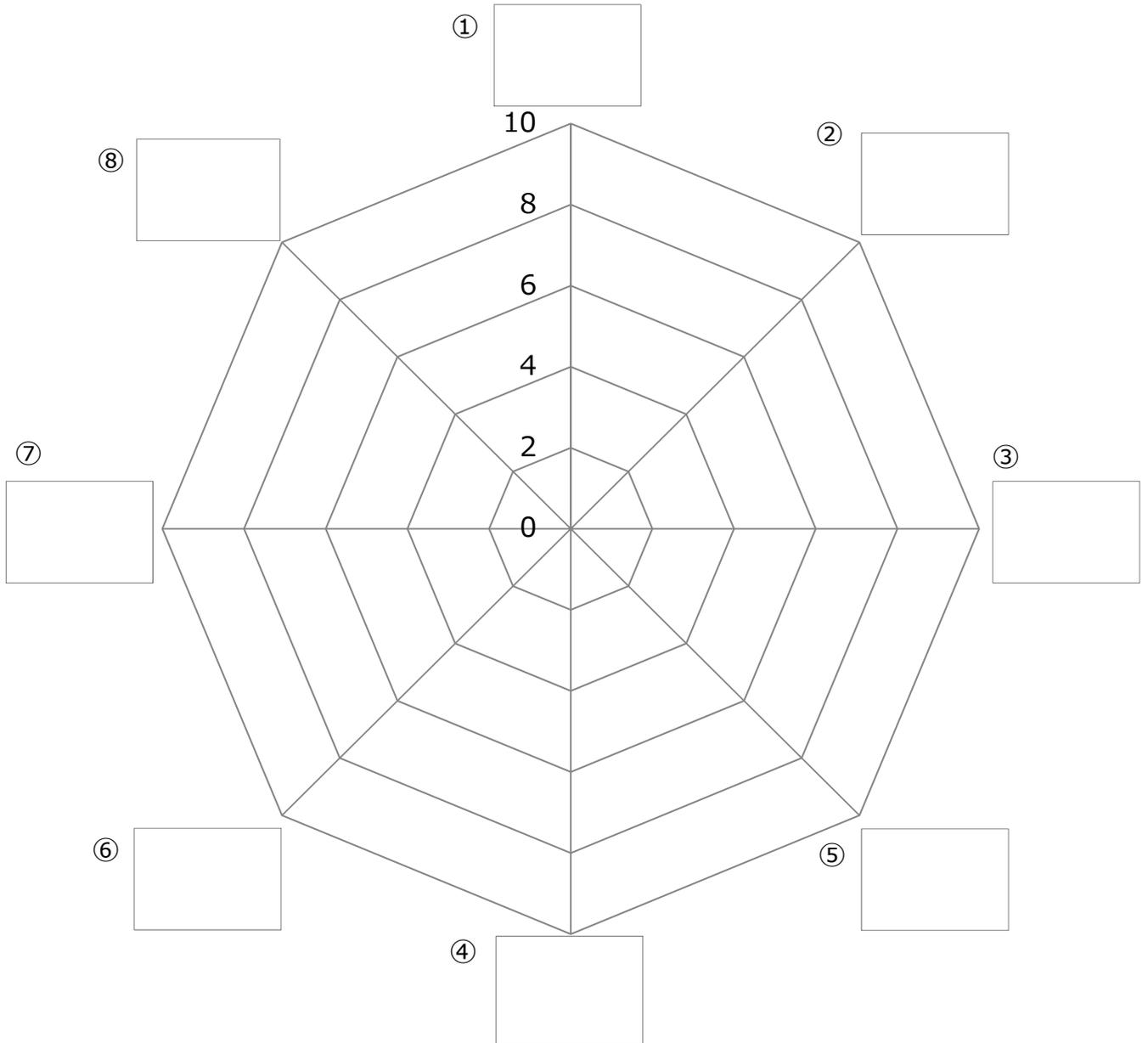
有権者レーダー = 能動的有権者宣言！

政治を意識してみてください。

# レーダー名

**【手順】**

- ①ジャーニーマップで考えた政策を書きうつす
- ②関心度を10段階で評価し、点を記入→線で結ぶ  
\*ジャーニーマップで考えた、自分や自分の身の周りとの関連を考えつつ…
- ③とくに関心の高い政策ベスト3について、その理由を考え、言語化シールに記入し、貼る
- ④3つの軸で分析する
- ⑤ほかの人に名づけてもらう



## 分析

★一つの政策に強い関心？多くの政策に関心？

← 一つ → 複数

★自分中心？社会中心？

← 自分 → 社会

★関心のある政策は似てる？違う？

← 似てる → 異なる

## 教材3「暮らしを任せられる政党を見つけよう」

財政が厳しくなっており、一方、少子高齢化が進み財政をしっかりと活用しないといけない。暮らしに直結する課題を実現してくれる政党はどこか。公共事業、福祉教育の未来を考えて、その問題をめぐる多様な見解から、その政治的な教養を高めることによって、政治を身近にする。また、最後に、意志決定としての投票を行うワークによって、投票の意義や、社会的な合意とは何かを考える市民を育成する機会とする。

### 1 教材のねらい

社会では解決が求められる様々な社会的課題があります。それを政治家に任せていては、自分たちの声が届いているか心もとない。従って、アクティブな市民として、社会の意思形成を図り、公共性の高い、今回は「暮らし」を題材に政党をつくることによって中身を知ることができる。それぞれ、与えられたロール(役割)に即して議論、討論することによって、政治的教養が深まってゆく。そのことが、選挙時の投票選択の基準の一つを考える機会を提供することになる。

本教材は、政党をつくるというプロセスを通じて、社会の課題、今回は「暮らし」と政府の関わりを考える材料を提供する。その多様性、複雑さについて実感を持って伝えることができる。また、このワークで考え議論される政策が、多くの人々に影響を与え、この市民社会の未来を考える大事な公共性の高い議論となる。民主主義社会における社会的な課題の解決に市民が目覚め、政党を選ぶ選挙へその意思を表示することの大切さを実感する基礎的視野を、グループワーク参加者は実感することができる。

グループワークが大切なのは、自らの見解を広げ、社会的な課題を公論で議論できる非日常の空間である。この練習は、日々の忙しい生活の中でも、公的なものに参加し、社会の一員である責任を体感する上で大きな役割がある。シティズンシップ教育では、単に、個人の権利主張だけの問題でなく、市民社会として、自分と違う弱者や、考えの違った人々の声に耳を傾け、どのような社会が、あるいは未来が、自分たちに必要なものなのかを獲得することが大事になってくるからである。

## 2 教材の特徴

ロールプレイであること。与えられた役割(ロール)に即して、擬似的な政党をつくる。そのロールを実行しながら、政策の中身の理解を深める。また、その政党のマニフェストをつくることによって、政党の機能を身につけていく。台本はないので、それぞれの立場についてのコンセプトを理解する。疑似政党グループ内でより政策を固め、プライオリティ(優先順位)を議論すると良い。今回は、3つの政党を擬似的につくってもらうが、参加者の中で、4つ目の政党をつくりたいという場合は、立ち上げてもらうと良い。

## 3 この教材で取り上げる社会的課題

日本の財政は、国地方合わせて、1000兆円の借金となり、先進国でも危機的状況である。そこで、財政再建は喫緊の課題である。しかし、国民の暮らし、福祉や教育、安全を財政が支えていることも間違いない。単純に増税したら、その中で、特定の人々が困ることも想定される。この複雑で大切で、待ったなしの課題に、どのように、民意(国民の声の反映)を政治が取り上げるかは未来に責任ある政党の義務といっても良い。

したがって、この課題を取り上げて模擬政党をつくり、議論する価値と、政党の機能、公正な選挙の役割を知ることは、参加者の主権者意識と、民主主義の形成に参画していくことの大切さを、生の政治課題から実感することになる。

## 4 学習の進め方

全体の流れと所要時間

- ・ 政党と、選挙のやり方を考える選挙推進管理グループをつくる(10分)
- ・ 政策を練る(20分)  
政党のコンセプト(資料2)を先に渡せば、時間の短縮になります。
- ・ 政策を広げる・選挙をする(30分)
- ・ 投票をしてみる(10分)
- ・ ふりかえり(20分)

**(1)政党と、選挙のやり方を考える選挙推進管理グループをつくる。(10分)**

**①4つのグループをつくる。**

- ア タイムライン(例えば誕生日の早い順に並び、番号をふる)で、4つのグループをつくる。希望者でつくっても良い。
- イ 属性によって、市民、選挙啓発グループ、選挙管理委員会職員、明るい選挙推進協議会会員などがうまく分散するようにしても良い。
- ウ この教材では、「財政再建党」、「どんどん仕事党」、「教育福祉党」の3つの政党と、選挙推進管理グループをつくる。他に政党をつくってもいいが、それだけ時間はかかるようになる。

**②政党名をつける。**

政党名をつけ、政党党首を選出する。

**(2)政策を練る。(20分)**

**①政党グループ**

- ア わら半紙に、自分たちの政党のコンセプトに合わせた政策(マニフェスト)をつくる。書記を決めて、提案をわら半紙に大きく書いてメモしてゆく。政策のばらまきにならないように、プライオリティをつける。
- イ どのような年齢階層やどんな地域に、特に訴えていくかを考えてみる。
- ウ 選挙用のタスキ(わら半紙を使って)、ポスター(模造紙)をつくる。

**②選挙のやり方を考える選挙推進管理グループ**

上記(1)政党をつくる、(2)政策を練る間に、以下のことを進める。

- ア グループのリーダーを決める。
- イ どのように選挙を公平にしきるかを考える。  
投票用紙は？ 選挙公報は？ 公開討論会をどう公平に運営するか？  
できれば選挙公報を発行する。
- ウ 市民に対する選挙の周知と投票推進の方法を考える。

### (3)政策を広げる・選挙をする。(30分)

- ・選挙活動(公開討論会) 政策発表5分、討議5分(×政党数)  
党名のたすきをつけたり、模造紙を見せて自分たちの政党をPRする。
- ・選挙推進管理グループは、発表の順番を公平に抽選で選ぶ。

### (4)投票を試みる。(10分)

可能なら、選挙管理委員会から投票箱、投票記載台を借りて投票する。

選挙推進管理グループは、

- ・投票よびかけ紙(投票所入場券)を参加者全員分つくって配布する。
- ・投票所を開設する。
- ・受付で投票よびかけ紙を受け取り、投票用紙を発行する。  
投票用紙は、政党名を記載した紙をつくる(コピー)か、白紙に政党名だけ書いてもらうことにする。
- ・投票後、開票する。  
各政党の得票数、無効投票数を発表する。また、判断が難しい記載があれば、選挙推進管理グループが、全体に示して、選挙推進管理グループの見解を発表する。

### (5)ふりかえり(20分)

- ・ロールプレイをしてみたの感想を聞く。
- ・政党の立場をやってみての感想、選挙推進の立場をしてみたの感想を聞く。
- ・国民が政策を理解するには、どのような方法があるか。
- ・選挙の意義、方法が伝わったか議論する。

## 5 準備する物

- ・模造紙 政党の数×2くらい
- ・マジックペン 3色以上×15本くらい
- ・わら半紙 30枚

## 6 役割

### ☆ファシリテーター

- ・全体の時間管理をしながら、グループ分けを行う。
- ・場が和やかに過ごせるような気配りと、このワークのねらいを説明する。
- ・ワークの流れを見ながら、ワークが効果を上げるように事務用品を供給する。

### ☆各政党

- ・それぞれが、各政党の特色、アピールポイントを有権者(参加者)に理解してもらえるように工夫する。あまり難しい内容にならないように、わかりやすいキャッチフレーズをつくるのが効果的である。
- ・弁舌さわやかな党首の選出も、政策の理解に加えて、選挙対策としても大切である。
- ・たすきや、ポスターを模造紙でつくり、選挙活動を盛り上げる。日本の選挙はまじめ過ぎて、楽しさやアピールの力が欠けるので、PR力をどう高めるかも考えると良い。

### ☆選挙推進管理グループ

- ・選挙を公正に、盛り上げる。
- ・楽しく盛り上げるための司会の話術や討論会や選挙会場の設定などに、公正、正確だけでなく、広範な有権者に、選挙の楽しさ、意義を伝えるには、どのような作戦を立てて、実践すれば良いかを真剣に考えて、やってみる。
- ・場合によっては、公職選挙法の課題について考えてみることも必要である。

### ☆助言者

- ・全体の進行をみながら、アドバイスをして回る。
- ・ファシリテーターを兼ねても良いが、専門家(研究者、教員、選挙管理委員会のスーパーバイザー的な管理職)が、ファシリテーター以外にオブザーバーとして参加することによって、より高い見地から助言やまとめを行うことができる。

## 7 具体的な手順

### (1)グループ分け

①同じ仲間や自分の考えや趣向によってグループをつくることもできる。

②意識がそれほど高くない集団、強制的にグループワークに参加する集団の場合、うまく偏りを減らしながらグループをつくる。その際、参加人数にもよるが40人以上60人くらいまでなら、模擬政党を4つまでは増やせる。これ以上グループを細分化すると、このワークが難しくなり過ぎる。また、2グループだと選択肢が少なく投票への判断が難しくなる。

③参加者の意欲レベルが高く、選挙啓発の活動をしている参加者が多くいれば、個人個人バラバラのグループに分けても良い。

※選挙管理委員会の職員や明るい選挙推進協議会の会員が、できれば4つのグループに万遍なく入ると良い。ファシリテーターになるからである。ただ偶然が支配するので、それを気にするかは、このワークのリーダー(ファシリテーター)が決めて、グループ確定前の若干の修正はあり得る。

グループ分けの方法を考えることも大事である。例えば誕生日順のタイムラインをつくる際、黙って身振り手振りで順番の入れ替えを行うと面白いし、親和性が高まる(アイスブレイクにもなる)。

### (2)自己紹介・アイスブレイク

参加者の緊張をほぐし、当日の課題へ向かうアイスブレイクの方法は、いろいろある。

紙を2回折って開くと4つの書くゾーンができるので、1つのゾーンは名前、1つのゾーンは趣味、1つのゾーンはこのワークに望むこと、1つのゾーンは最近の選挙啓発活動(あるいは自分の大切にしていること)の実践を、それぞれ1行くらいで大きく書く。それを見せ合いながら、自己紹介を行うと良い。

### (3)学習の進め方の説明

- ①このグループワークの目的、政党の機能を理解してもらう。
  - ②選挙の枠組みを理解し、公正公平に運営することを実践してみる。
- 政党グループは、**ワークシート2「政党政策づくり」(39-40頁)**を使う。
- 選挙推進管理グループは、**ワークシート3「選挙推進管理」(41-42頁)**を使う。

### (4)社会的課題の把握

#### ⇒資料1「わたしたちの国の財政の現状と財政再建」(36-37頁)

参加者が日本の財政状況に関する知識がない場合など、研修会の主催者が10分程度、日本の財政の基礎をレクチャーすることが必要な時もある。

### (5)役割の理解

#### ①3つの政党

#### ⇒資料2「各政党の見解」(38頁)

それぞれ、ロール(役割)が設定されており、そのロールを短時間で理解して、それを参加者(国民)に幅広く理解してもらうことを目的に、チームで活動する。

役割を演じることでこの財政再建の課題が明確になるし、課題をさらに掘り下げるために、ワーク会場でスマートフォンやタブレットを使って、情報を収集することも必要になる。協働してこの課題に取り組みように、役割の中身を議論して、それぞれの役割を実行できるように、確認してからワークを始めたいものである。

選挙管理委員会の職員がワークに参加する場合は、その中でリーダー的にこの役割を実行するか、逆にアドバイザー的に困ったときのサポートに徹する。どちらにしても、専門的視点から、参加・参与していただくと全体のレベルアップができる。そのことによって、このワーク研修の参加者の達成度が上がる。

#### ②選挙推進管理グループ

選挙活動を盛り上げ、公正に公開討論会を実施し、投票を管理する。

※賛成反対の単純な役割ではないので、各政党や選挙推進管理グループは、よくこの役割を理解する必要がある。役割理解をしっかりとしないと、グループワークが成功しない。

## **(6)ロールプレイ 各グループでそれぞれ議論して行う。**

各政党は、党首を決め、政策について話し合うので、日本の財政に関して、政策の内容を深めて知ることができる。

選挙推進管理グループは、選挙を公正に盛り上げて、有権者(参加者)全体に分かりやすく知らせること、盛り上げるにはどうしたら良いかを工夫してみる。単純に選挙啓発を考えるだけでなく、具体的な、シングルイシューの選挙を運営するロールを実践することで、知恵が生まれ、現在の選挙啓発の課題を発見する気づきを得ることができる。

## **(7)政策発表討論会**

政策発表は、有権者(参加者)に訴える大事な場である。たすきや、模造紙による分かりやすい政策提示など、各政党は工夫して望む。討論でも、政策がうまく伝わるように、質問に答えながら、党の優位性を伝えるようにがんばる。最終的に、票を得る政党の心理を体感することによって、政党の役割と特性を理解していくことになる。

選挙推進管理グループは、発表の順番をくじ引きで決めるなど公平を旨とした運営に留意する。司会は討議にあたって、質問者に公平にあてて、政策が深まるように促す。時間の管理も大事なポイントになる。

## **(8)話し合いのルール**

①実際の自分の考えではなく、役になりきって、その役割を果たすようにする。

②話し合いがうまくいくように、次の点を心がけましょう。

- ・ 集団で考えることによって良い知恵が出る。
- ・ グループのメンバーを批判せず、意見を多く出し合う。
- ・ 他者の意見を生かすように、全体を運営する。
- ・ まとめ役として、グループリーダーは活躍する。

③選挙管理委員会や明るい選挙推進協議会の方がいる場合は、選挙運営の視点からワークがうまくいくように、グループ全体に助言する。

④批判されていると感じたとしても、それはこのワークを達成するための努力であり、感情的にならず、冷静に対応する。意見と人格は違うことを確認して、冷静にワークを続ける。建設的に全体のワークが達成できるように、がんばってください。

## **(9)投票**

①事前に、投票案内、選挙人名簿(参加者名簿)を用意して、模擬選挙会場をつくる。

②できるだけ本当の選挙につながる投票用紙、例えば選挙管理委員長の印鑑付のものを発行する。

③投票後、公正に開票する。

## **(10)ふりかえり**

この模擬政党、模擬選挙管理委員会、模擬選挙を通じて、それぞれのロールにとって、どんな気づきがあったかをふりかえる。自分のまとめた意見を全体で交流することによって、このワークショップの成果を全体で共有することができる。3すくみの3つの政党を設定することによって、多様な政策を提示できるので、政策を理解する上での深まりについても意見表明すると、政治の意志決定すべき内容の一つを理解することにつながる。

## 資料 1「わたしたちの国の財政の現状と財政再建」

### 1 財政状況

日本の財政は、世界的にみてもかなり深刻な状況にある。国債と財投債はGDP比200%を超えた。国債と地方債の合計は1000兆円となり、その金額の大きさ、日本の経済水準との関係でも困難がある。ついに、戦前の戦争中の国家赤字水準を突破した。日本銀行総裁は財政規律の大事さを語り、消費税増税が決まっているが、プライマリー・バランス(基礎的財政収支)が取れる見通しさえ厳しい。

借金を返さなくては、インフレーションで国民生活が大変になる。また、財政が使えなくなれば、国民の景気、教育・福祉にも大きな影響が出る。その中で、財政再建が必要となっている。専門家(日銀、財務省)がうまくやってきたが、今後の見通しが無い。誰かが、この問題を解決しなくてはならない。また、それには、政治上の意志決定が必要である。

とすれば、この課題を引き受けて、国民に政策提言をして、選ばれて改革に当たらなくてはならない。そこで、3つの視点を提示する。

一つ目は、財政再建を第一にして、財政の縮小(行政改革)、増税を語る政党である。この政党は、財政の危機を国民にしっかりと説明していく。未来の若者に借金を残さないようにする。⇒財政再建党

二つ目は、景気を良くすることで財政再建の解決をめざす。重点的な公共事業で、企業をもうけさせ、給与を上げて、税金を取りやすくする。規制緩和をすすめ、新しい民間の力で、経済発展をめざす。⇒どんどん仕事党

三つ目は、財政再建で切り捨てになりそうな、教育・福祉へのセーフティネットの再構築を提案する。声を上げないと減らされる財政資金の重点配分を要求し、少子高齢化に対応する安心した政治をめざす。⇒教育福祉党

この3つの論点で、3すくみで議論すれば、日本の未来の財政のあり方、重点化の方向が市民的熟議としての模擬選挙で語られ実現していくのである。

## 2 財政再建の方法も多様にある。

まず、増税である。増税は、その対象になる人々で軋轢がある。法人税は財界が反対し、消費税は国民全般が反発する。累進課税の視点から、税を払える人・企業に払ってもらうことも大事である。そのように、どのような税で、誰から集めるのか、公平で平等なのかも、大いに議論となる。

次に、行政改革や、財政の切りつめである。行政改革に異論のある人は少ない。しかし、国民や市民一人あたりの公務員数は、日本は少なく、非正規化も進んでいるので、公務員を減らしたり、民営化することでは限界も多い。また、極端に現在の予算を削れば、削られた階層や企業から批判もあろう。これは、単純にお金はないからできないという結論では進まない課題なのである。

## 資料2「各政党の見解」

### ①財政再建党

国・地方1000兆円を超える借金は、国民の未来に暗雲を漂わせている。国が破綻したら、福祉サービスも警察も機能しなくなる。どうやって、この借金を減らすかを考えるのは、未来への責任である。ただ、財政を減らすだけでは、国民の中に困る人も出てくるので、行政改革で小さな政府をめざし、公務員を減らす。また民間でできることは、民間でやってもらう。貧困の人には、福祉の削減は厳しいので、対策を取りながら、消費税増税を進める。

### ②どんどん仕事党

財政再建も大事だが、まず、景気を良くして、税収を上げることが大事である。地方創世、少子化対策など、重点的な政策が必要である。また、公共事業も、オリンピックに向けて、全国の交通網の再整備も含めて行わないといけない。海外のODAもうまく使って、日本の企業に仕事を増やさないといけない。財政的に苦しいが、仕事があってこそ、この国が幸せになれる。福祉、医療などに回すお金は節約しつつ、消費税増税は仕方がない。

### ③教育福祉党

財政が厳しくても、憲法で保障される最低の権利は必要である。新たに子どもの貧困など、中間層が崩壊してこの国は、大変な格差社会になっている。正規の労働を増やしつつ、税金を困った国民のために使わないといけない。また、国際化、情報化に対応して、学校教育を改革しないといけない。グローバル人材の育成や、小学校からのIT教育など、世界で働ける国民を育てる充実した教育政策を、もっと財政も投入して行わないといけない。

## ワークシート2「政党政策づくり」

氏名( )

<政党の特色(目的)の共有> (各人のメモ)

<党首の選出>

さん よろしく!

<政策を列挙、具体例も考えてみる>

A( )  
そのメリットは?

B( )  
そのメリットは?

C( )  
そのメリットは?

D( )

そのメリットは？

E( )

そのメリットは？

<優先順位の議論>

No.1は

No.2は

No.3は

<どんな年齢階層、地域に重点的に訴えますか？>

皆様 ご苦労様

### ワークシート3「選挙推進管理」

氏名( )

<選挙推進管理(目的)の共有> (各人のメモ)

<グループリーダーの選出>

さん よろしく!

<立ち会い演説会の運営方法・ポイントを検討してみる>

A

B

C

<選挙啓発のやり方を検討する>

<演説討論会の進行表>

司会

さん よろしく。

<模擬投票の手順・運営方法は？ 準備メモをつくる>

皆様 ご苦労様

## 教材4「政党をつくって政策論争をしてみよう」

政策上の対立軸を2つ設定し、その対立軸によって参加者は4つの政党に分かれ、政党ごとに党首、大臣などの役割分担を行い、それぞれマニフェストを作成する。そのマニフェストをもとに政策論争を行い、投票者(オーディエンス)が投票すると同時にアドバイス表に記入し、論争を行った政党に渡す。このように投票で、政策や論争の優劣を競うとともに、各党はアドバイス表をもとに自党の政策をふりかえる教材である。

### 1 教材のねらい

#### (1)政策を考える力を身につける。

各党は指定された論点をもとに政策を練り、マニフェストを作成する。その過程で「政策の整合性」、具体的には各省庁の施策や要求のバッティング(かちあい)の解消、予算の出所、ある省庁の施策としてはメリットがあるが他の省庁の施策としてはデメリットである政策の調整や決定などを行う必要がある。このような調整等を行うことによって、多面的・多角的な思考能力を養うことができると同時に、資料(根拠)に基づいた政策提案が必要であることを学ぶことができる。また、政策の実現に伴う予算を考えることによって、現実の政策はトレード・オフ(二律背反)の関係に立っていることを学ぶことができる。さらに、短期的なスパンの政策と長期的なスパンの政策の比較なども考えられるようになる。

#### (2)討論の技術を身につける。

政策が異なる政党と政策論争を行うことによって、「資料(根拠)を持つマニフェストを作成すること」=「資料(根拠)に基づいた主張を行わなければならないこと」を理解することができる。同時に、「政策論争」=「ディベート」に必要な能力、具体的には、明快に話す能力、相手の主張を理解する傾聴能力、相手の主張の課題を見つけ質問や反論に結びつける思考能力、相手からの質問を理解し判断して反論する判断力や討論力などを身につけることができる。さらに、相手との論争の優劣だけでなく、最終的には投票者(オーディエンス)への説得が必要であること、つまり、

第三者への話し方、資料の示し方などプレゼンテーション能力も身につけることができる。

### (3)政策判断の基本的能力を身につける。

投票者(オーディエンス)は、論争を聞き、それぞれの政策のメリットとデメリットはどちらが大きいのか、資料(根拠)に基づいた政策か、政策の整合性はあるのか、プレゼンテーションなどは的確だったかなどを考えて投票するが、この思考判断のプロセスは、現実の投票行動で持つべき「投票の指針づくり」を行う能力を磨くこととなる。

また、後述するように外部ジャッジに参加してもらい、外部ジャッジから専門的な講評を聞くことは、自分の思考判断による「投票への指針づくり」だけでなく、新しい「指針」=「見方考え方」を身につけることができる。

さらに、論争を行った政党のメンバーは、投票者(オーディエンス)からのアドバイス表と外部ジャッジからの講評を受けて自分たちの主張をふりかえり、政策の修正の方向性などを見つけることができ、今後の政策判断や提案などへの視点が広がることになる。

## 2 学習の進め方

全体の流れと所要時間

- ・ 政党を結成する(5分)
- ・ 政党名を決め、役割分担を行う(10分)
- ・ 政策論争の準備を行う(40分)
- ・ 政策論争を行う(55分)

### (1)政党を結成する。(5分)

大きな対立軸を2点用意する。例えば、今回は、

- ①日米安保を強化するかしないか、同時に防衛力を増強するか維持・縮小するか
  - ②積極財政で「大きな政府」をめざすか、緊縮財政で「小さな政府」をめざすか
- を用意し、その対立軸によって参加者は自由に4つの政党に分かれる。

**(2) 政党名を決め、役割分担を行う。(10分)**

それぞれの政党に所属した参加者で、政党名、党首や各担当大臣を決める。

**(3) 政策論争の準備を行う。(40分)**

① 党内で政策(指示された論点を含むこと)をとりまとめ、調整を行って、マニフェストとしてまとめる。

② 政策論争の準備を行う(政策の発表者、相手の党への質問事項の検討など)。

③ 政策論争に使用するマニフェストなどを書いたプリント(A 3 両面刷り)などを準備する。

**(4) 政策論争を行う。(55分)**

① **政策論争を行う**(時間は目安なので、講習によって変えてよい)

ア X党の政策発表(9分)

イ 作戦タイム(2分)・・・Y党がX党への質問を考える。

ウ 質疑応答(9分)・・・Y党がX党に質問し、X党が答える。

エ Y党の政策発表(9分)

オ 作戦タイム(2分)・・・X党がY党への質問を考える。

カ 質疑応答(9分)・・・X党がY党に質問し、Y党が答える。

キ 投票者(オーディエンス)=W党とZ党による投票、アドバイス表記入(5分)

② **外部ジャッジによる講評**(10分)

**(5) ふりかえり**

① 開票結果の公表

② W党とZ党はX党とY党にアドバイス表を渡し、X党とY党がふりかえりを行う。

この時間に、次に政策討論を行うW党とZ党は準備を行う。(5分)

※「X党対Y党」「W党対Z党」の2試合を行うと、全3時間程度となる。

### 3 準備する物

- ・当該年度の予算書(できるだけ詳しいものがよい)
- ・対立軸(今回は、「防衛・安保」関連と「財政」問題)の資料(書籍、新聞など)
- ・マニフェスト作成のためのパソコンやプリンター、論争で使うプロジェクター
- ・投票箱、投票記載台、集計用の機器など一式(市区町村の選挙管理委員会から借りることもできる)

### 4 役割

☆ファシリテーター

☆4つの政党

- ・2つの政党が論争しているとき、残りの2つの政党のメンバーは「投票者(オーディエンス)」となる。開票作業も行う。

☆外部ジャッジ

新聞社の政治部記者や政治学専攻の大学院生などが望ましい。

### 5 具体的な手順

#### (1) 政党をつくる。

政党の枠組みを示し、参加者は4つの政党に分かれる。

	日米安保を強化し、防衛力を増強する。	日米安保、防衛力ともに現状維持又は縮小する。
積極財政で「大きな政府」をめざす。	<b>W党</b>	<b>X党</b>
緊縮財政で「小さな政府」をめざす。	<b>Y党</b>	<b>Z党</b>

#### (2) 政党名を決め、役割分担を行う。⇒ワークシート4「政党名と役割分担表」(49頁)

最低必要なポストは、党首、財務大臣、外務大臣、農林水産大臣、厚生労働大臣、防衛大臣、経済産業大臣、エネルギー担当大臣とする。

※兼務は可能だが、副大臣等もおいて、一人一役以上は就くこととする。

### (3)政策を検討し、マニフェストにまとめる。

#### ①最低必要な論点として、次の5項目を含むこと。

- ア 景気・雇用対策、財源問題(消費税など租税改革、国債の諸問題)
- イ 年金・医療(少子化対策を含む)
- ウ 復興関連(原発を含む)、環境問題(CO2などの排出、新エネルギーを含む)
- エ 外交問題(領土問題、TPPを含む)
- オ 防衛問題(沖縄の基地問題、自衛隊の海外派遣を含む)

※これ以外に論点を設定する場合は、さらに2項目までとする。

#### ②予算については次の点に注意する。

- ア ベースの予算は、「当該年度の予算」とする。
- イ 「積極財政派」は予算を拡大してもいいが、国債返済の予定を含めること。
- ウ 「緊縮財政派」は予算の増加は認められないので、新規事業を計画する際はどの予算を削って行うかを明記すること。ただし、累積国債残高を減らすなど単純な予算の削減は可。

#### ③マニフェスト作成にあたっては、以下のような検討手順が考えられる。

- ア 最低限の方針を全体で作成→担当大臣等ごとに担当部分の案を作成→他省庁と調整が必要な案件は関係大臣等会議→担当大臣等の案の調整→調整会議→全体会議
- イ 担当大臣等が担当部分の案を作成→他省庁との調整→全体会議
- ウ 党首のトップダウンによる指示→担当大臣等が担当部分の案を作成→他省庁との調整→全体会議
- エ その他

⇒ワークシート5「マニフェスト作成手順(例)とマニフェスト表」(50-51頁)

#### ④完成したマニフェストを、配布用プリント(A3両面刷り)にまとめる。

パワーポイントを使用する場合はデータ等の準備を行う。

#### (4)政策論争の準備を行う。

①自分の党の政策は誰が説明するかを決める。

党首1人でも良いし、リレー式で複数が説明しても良い。

②相手の党のマニフェストを予想し、質問事項を検討、質問者を決めておく。

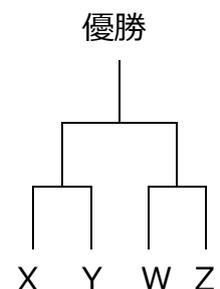
③相手の党からの質問を予想し、回答を用意しておく。

#### (5)政策論争トーナメントを行う。

①マニフェストに基づいた討論を行う。

②時間は、先に示したとおり。

③相手の党への質問は、相手の党の回答者を指名できる。



⇒参考資料1「政策論争の実施例」(53頁)

#### (6)W党とZ党に属する参加者は投票を行う。

同時に、X党とY党へのアドバイス表に記入し、終了後、各党に渡す。

⇒ワークシート6「アドバイス表」(52頁)

#### (7)外部ジャッジが講評を行う。

講評については、現実の政治や経済状況を踏まえて、各党のマニフェストのどの点が悪かったか、どの点をどのように修正すると良くなるかを具体的に解説してもらう。また、W党とZ党に属する数人が、この時間に開票を行う。

⇒参考資料2「ジャッジによる講評例」(63頁)

#### (8)ふりかえり

開票結果を公表し、受け取ったアドバイス表と外部ジャッジによる講評をもとにX党とY党のメンバーはふりかえりを行う。

ワークシート4「政党名と役割分担表」

政党名	
メンバー	党首：
	-----
	財務大臣：
	外務大臣：
	農林水産大臣：
	厚生労働大臣：
	防衛大臣：
	経済産業大臣：
	エネルギー大臣：
	_____ 大臣：
_____ 大臣：	

## ワークシート5「マニフェスト作成手順(例)とマニフェスト表」

### 作成手順

マニフェスト作成手順を大まかに示します。他にも作成の手順はあると思いますが、参考にしてください。ここでは、「5 具体的な手順 (3)政策を検討し、マニフェストにまとめる。③マニフェスト作成手順」の「ア 最低限の方針を全体で確認してから、担当ごとに政策を考え、調整していく」パターンを考えます。

①まず党员全員で、自分の党の「立場」を確認してください。例えば、X党ならば「積極財政で『大きな政府』をめざす」「日米安保、防衛力とも現状維持又は縮小する」政党です。

②同様に、全員で党の立場を堅持しつつ、党がマニフェストで国民に示す政策の「根本方針」「政策の目標」を決めてください。X党は「経済活性化」でした。その後各大臣が、担当の政策を考えるわけですが、論争に備えて党として政策を考える際の「必要条件」を確認してください。例えば、以下のことなどです。

ア 現状にはどのような「問題」があり、問題解決のためにこの政策を実施(廃止)するとどのような効果があり、その効果は党の目標とどのように関連するか説明できるようにしておく。

イ 新規事業の提案、それまでの事業の廃止・縮小には、その根拠(資料)をつける。

ウ 我が党の立場は、「積極財政」なので新規事業の制限はないが、財源は明記する。

エ 財源が「国債」に依るのならば、その償還方針を考えておく。

③その後各大臣は、自分の担当部分の政策案をつくります。

④再び全員が集まり、各大臣が持ち寄った政策のバッティングや矛盾をチェックし、調整を行います。その際、党の目標にあう最適の政策はどれになるか、「短期的スパン」「長期的スパン」での課題解決の目安などを考慮すると良いでしょう。

⑤調整が終了したら、政策論争の準備に入りましょう。

## マニフェスト表

我が党の立場	①
我が党の政策の根本方針・目標	②
財務大臣の政策	③、④
外務大臣の政策	③、④
農林水産大臣の政策	③、④
厚生労働大臣の政策	③、④
防衛大臣の政策	③、④
経済産業大臣の政策	③、④
エネルギー担当大臣の政策	③、④
その他の大臣の政策	③、④
その他の大臣の政策	③、④
その他の大臣の政策	③、④

## ワークシート6「アドバイス表」

### 1 項目ごとの評価

☆ 5(良い)→1(悪い)

提案した政策は分かりやすかったですか。	5	4	3	2	1
政策にはしっかりした根拠がありましたか。	5	4	3	2	1
それぞれの政策には整合性がありましたか。	5	4	3	2	1
各政策には予算的基盤がありましたか。	5	4	3	2	1
マニフェストは分かりやすかったですか。	5	4	3	2	1
プレゼンテーションは分かりやすかったですか。	5	4	3	2	1
相手への質問は核心を突いていましたか。	5	4	3	2	1
質問の回答はキチンと対応していましたか。	5	4	3	2	1
総合的に評価して下さい。	5	4	3	2	1

### 2 ワンポイントアドバイス ☆建設的なアドバイスをお願いします！

## 参考資料 1 「政策論争の実施例」

### 【X党の政策発表】

党首：X党です。私たちは経済政策に重点を置き、日本の経済活性化をめざします。

そして、「豊かな国 日本」を復活させます。その基礎となるのは財政です。財政政策では、消費税を10%に引き上げます。さらに最高税率を、所得税を45%に、相続税を50%に引き上げ、相続税については、控除対象や課税基準の見直しを行います。法人税は引き下げ、企業利益の拡大、経済の活性化、雇用の拡大をめざします。予算繰り越し制度を導入し、翌年へ予算を繰り越せるようにして無駄遣いを減らします。2007年度予算では、「ムダ」とされたのは2兆円にのぼるとのデータがあります。これらをなくすことで、歳出の削減や国債発行の減少を行います。個別の政策については、各大臣が説明します。

防衛大臣：沖縄基地問題では、普天間基地と嘉手納基地を統合します。また、海兵隊をグアムを中心に移転し、県外にも移して沖縄の負担を軽減します。「思いやり予算」の縮小で、防衛予算の縮小を進めます。さらに、日米地位協定については、マニフェストの通りです。予算については、正面装備も含めて、防衛費全体を減らします。ただし、自衛隊の海外派遣は、現状通りとします。

経産大臣：円高の解消、雇用の安定、復興事業を重点的に行います。まず、日本銀行と連携して「ゼロ金利政策」など金融緩和政策をとります。金融緩和によりマネー・ストックが増加し、円が外国為替相場にまわり、円高が解消されます。特に、非正規雇用対策については、中小企業雇用安定基金などを使いながら、基金の整理統合や連携を取りながら正社員化を進めます。また、育児休暇から復帰するために職業訓練を充実させます。中小企業に優秀な人材を確保するために、また大学との連携を進めるため支援策として45億円投入します。復興事業については、1兆4869億円を復興金として地方に分配します。内訳はマニフェストの通りです。ただし、被災地の中小企業には一般地域とは別に692億円を投入します。最後に、マイナンバー制度を導入することによって、税金徴収にかかる費用を92億円あまり削減します。マイナンバー制度は、1兆1500億円の経済効果があるとされており、さらに税の未納をなくすことができます。

外務大臣：領土問題について。尖閣諸島の問題については、国連の国際司法裁判所に提訴しながらも性急な対応はせずに、日本固有の領土であることを主張し続けます。竹島については、国際司法裁判所に単独提訴します。北方領土は、2島先行返還を求めます。TPPは農業問題などでデメリットがたくさんあり、メリットは日本がここ数年受けている為替変動より少ないとの試算もあるため、メリットが少ないので不参加とします。TPPと違い、農業などのデメリットが小さい「日中韓FTA」交渉を進めていきます。このように外交でも経済活性化をめざします。

農水大臣：個別補償制度、食の安全、農林水産業の発展を重要課題と位置づけています。2010年に閣議決定した「食糧自給率の向上」をめざし、農業経済の安定と農作物の改良を目指し、農家への個別保障を各作物に一律支給し、支給対象作物などを拡大して充実させ、「農業支援制度」と名称を変更します。そして、農林水産業への手厚い保護を国民に周知し、産業化を進め、他の産業と融合することによって、生産・加工・流通を一体化させて付加価値を高め、地域ビジネスの展開や新たな商品開発を目指して、「儲かる農林水産業」を目指して農家の雇用と所得を拡大していきます。

厚労大臣：年金についてですが、基礎年金は全て国庫負担として税金でまかさないです。国民年金は、国内に10年間住んでいたら、満額の6万6千円を給付します。その他については、掛け金等によって増額していきます。高額所得年金受給者に対しては、控除等を見直して年金を含めた所得について所得税を徴収します。年金制度の内容の変更などについては、十分な説明を行います。医療制度については、新任研修医制度を廃止し、病院の統廃合を進め、医師の集約を図ると同時に、総合診療医を育てて役割を分担します。次に生活保護についてです。生活保護費を娯楽に使ってしまう人が問題となっているため「フードスタンプ制」を導入します。少子化対策については、育休中の所得の8割を保障することとし、そのうち6割を国が負担します。3歳未満の子供がいる方には、勤務時間の短縮制度を導入し、さらに育休制度を使いやすくするため、午前・午後に分割して使えるようにします。また、配偶者が専業主婦の場合でも、育休を取れるようにします。

エネ大臣：日本の原発は全て止め、廃炉の手続きに入ります。風力発電を2050年までに135.5Twhに引き上げ、洋上風力発電の研究・開発・導入を促進します。これらの研究などで、2020年までに140万人の雇用を創出します。現在、原発が発電の3割を占めていますが、2030年には自然エネが原発の発電を超え、2050年には自然エネルギーが発電第1位となり、火力発電は39%まで低めることができます。また、国立公園法などを改正して、地熱発電の開発を進めます。太陽光発電の住居補助金として、1Kwあたり3万5千円を支給します。福島原発地域の生活環境を整備し、施設や地域ごとに除染などの目標を定めます。

党首：最後に予算の説明をします。歳入歳出は、106兆933億円です。昨年度予算より13兆3367億円あまり増えています。その内訳についてはマニフェストを見てください。これで、「X党」の政策発表を終わります。

**【作戦タイム】 Y党がX党への質問を考える。**

**【質疑応答】 Y党がX党に質問し、X党の各担当大臣等が回答する。**

質問：財務大臣に質問します。消費税と所得税を上げて、法人税を下げてバランスが取れると言っていました。バランスが取れるというのはどういう意味ですか？

財務大臣：バランスが取れると言っているのではなく、法人税引き下げにより経済効果を期待していると言っているのです。

質問：増税で国民の負担が増えるのですが、法人税減税で国民の所得は増えるのですか？

財務大臣：消費税については年金の財源に充てるためです。これまでの保険料に加え、消費税の増税により年金税源が大きくなるということです。

質問：少子化対策の費用ですが3120億円とマニフェストにあります。育休や勤務時間短縮制度などで企業の負担は増加します。また、育休中の所得保障も行うと言っていますが、3120億円はどちらの費用なのですか？それとも合計ですか？

厚労大臣：所得保障が3120億円です。

質問：では、勤務時間短縮などで企業負担は増えてしまいますよね。経済にとっては  
どうなのですか？

厚労大臣：負担はありますが、法人税の引き下げなどでカバーしています。

質問：法人税引き下げと育休などの企業負担とはどちらが大きくなるのですか？

厚労大臣：企業は、年金負担も減るので、合わせると負担はほぼ同じになると考えて  
います。

質問：どのくらいの金額ですか？

厚労大臣：すぐには答えられません。

質問：防衛大臣に質問です。沖縄の海兵隊の移転などで、沖縄の負担軽減と言いまし  
たが、移転費用等はいくらかかっているのですか？

防衛大臣：平成23年で、2500億円くらいかかっています。

質問：在日米軍駐留負担金の削減と言っていますが、具体的な削減額はどのくらいで  
すか？

防衛大臣：これから折衝します。

質問：エネルギー担当大臣に質問です。電力会社がいろいろ積み立てているにせよ、  
国の電源立地対策費用などが300億円しか計上されていないので、本当に廃炉  
などできるのですか？また、廃炉に対して、自然エネ対策費も必要なはずなの  
で、この予算でできるのですか？

エネ大臣：経済波及効果があるので大丈夫です。

質問：いや、予算についての質問です。300億円で対策ができるかというものです。

エネ大臣：廃炉については、国のみで行うものではありませんので。

質問：いや、電力会社の「廃炉積立金」が、1兆円不足しているのですが。

エネ大臣：この予算は次年度のものなので、次年度以降も「廃炉費」は計上していきま  
す。

質問：風力発電ですが、現在の発電量から42倍に引き上げるということは、海を埋め  
立てて風力発電施設を作るのですか？

エネ大臣：埋め立てではなくて、洋上風力発電を推進します。

質問：どちらにせよ、風力発電は環境への影響が心配されているのですが。

エネ大臣：洋上発電は、環境への負荷がかなり少ないと考えています。

質問：農水大臣に質問です。農業関連費が4500億円くらい計上されていますが、どのような使い道なのですか？

農水大臣：個別補償制度は、生産費より販売額が少なかったときに補償するのですが、それだと農家の農業への意欲が低下するので、頑張った分だけ補償しようとする制度に改めます。

質問：個別補償制度は販売額に関係なく一律に補償すると書いてありますが、これだと努力して販売額を増やした農家とそうでない農家との差が出ないということですよ。

農水大臣：違います。支給する最低額が、単位あたり1万5千円で、そこから先は努力次第ということです。

質問：外務大臣。国際司法裁判所への単独提訴によって、日韓の外交関係が悪化することは避けられないはずですが、それで日中韓FTA交渉に悪影響はないのですか？

外務大臣：領土問題と経済交渉は別問題と考えています。FTAについては日中韓三国とも、経済的利益があるので交渉は成立します。

質問：厚労大臣、病院の統廃合を進めるということは、病院を減らすことなのですか？

厚労大臣：そうです。ただし、経営がうまくいっていない病院の統廃合です。また、総合診療医を育成するので地域医療は低下しません。

質問：病院が遠くなり、症状が悪化する人もいるのではないですか？

厚労大臣：「かかりつけ医」を充実して、重病の患者さんを専門病院へ送るという、医療の役割分担を明確にします。

質問：経産大臣に質問です。マイナンバー制度で、1兆円以上の経済効果が見込まれると言っていましたが、具体的にどのような効果が生まれるのですか？

経産大臣：資料の出典は、日本生産性本部のもので、税徴収の効率化、医療費の効率化など、徴収などの過程にお金がかからなくなるのです。

**Y党の質問終了**

## 【Y党の政策発表】

党首：これから、「Y党」の政策発表を行います。我が党は、「小さな政府」をめざして、国債を減らし、日本の危機的状況を改善したいと考えています。これからは、各担当が説明します。

経産大臣：我が党は、規制緩和で新しい産業を創出し、景気や雇用を改善します。ですから、景気改善などのための増税は行いません。

財務大臣：我が党の基本方針は、これ以上国債を増やさないことです。国債は、次の点から増やしません。国債を増やすことは第一に、将来の金利負担を上昇させ、財政破綻を招く恐れがあります。第二に、借金の返済のため増税の可能性が高く、景気の悪化を招きます。まず、第一の金利の負担の問題ですが、国家も健全財政をめざさないと、誰もお金を貸してくれなくなってしまいます。いわゆる「ハイリスク・ハイリターン」は誰も望みません。現在日本が多大の借金を背負いながら、いまだ国債が売れる理由は、国債が国内で消化されているからです。しかしこれ以上借金が増えて、もし外国に頼るようになると、国債の償還に疑問が残り、国債の売れ残りが出る可能性があり、政府は予算を組めなくなります。これは財政破綻を招くということです。第二は消費税の税率アップの問題です。約20年前、消費税が3%から5%に引き上げられました。その時、税収入がそれまでの60兆円から40兆円まで落ち込みました。このことから、増税と税収入の増加は一致しないことが分かります。税率アップで税収が減少することは、その国の経済活動が下がっていることです。つまり、増税は景気の悪化を招くのです。しかし、我が党の政策を実行すれば、国債発行を押さえ、日本の将来を立て直すことになります。

厚労大臣：現在の年金は、本来は毎年年金の支給額を改定する仕組みとなっています。しかし、2000年から2002年のデフレ下で、支給額を改定しなかったため、本来の受給額より2.5%ほど支給額が高くなっています。そのため年金の払い過ぎが生じ、これまでの過払いは約7兆円。このまま改定しないと、毎年約1兆円ずつ払い過ぎることになります。そのため、この過払いを解消して、歳出を抑制します。また、その他の対策も検討します。

少子化大臣：少子化対策について、2つの対策を実行します。第一です。日本の未婚者の実情は、交際相手がないからという回答が過半数を占め、男女間の交際が活発でないことがあります。そこで婚活サポートを行います。第二は、子供を産みやすい社会を実現します。詳しくは、マニフェストを見てください。このような政策を実施すると、結婚したあとで経済的に親が子供を育てやすくなります。こうして我が党の根幹の政策である、「少子化対策」に取り組みます。次に、生活保護の問題です。現在、生活保護受給者が受給対象品以外のものを買うことが問題となっています。そこで我が党は、次の二点を実行します。1つ目は、「買ったよカード」の発行です。具体的には、このようなカード(みんなに示す)を生活保護受給者に配布します。モノを買うときにこのカードと身分証明書を提示することによって、おおまかに買ったモノが記録されるようになります。これを月1回チェックすることによって、規定外のモノを買っていないかチェックし、不正売買などを防ぎます。我々は「小さな政府」をめざしていますので、この「カード」は地方に委託します。ここで浮いた財源は、「生活楽々システム」で、キチンと生活している人に上乗せしていきます。

工内大臣：我が党は、いらぬ原発をつくるつもりはありませんが、原発を全てなくすことは現実的ではないと考えます。理由を一つあげると、現在、廃炉費が1兆円不足していることが挙げられます。さらに、原発を廃止した場合、火力発電に頼らざるを得ないので、電気料金が上がり、景気の停滞を招くからです。したがって、原発依存率は維持します。ただし、原発に替わるクリーンエネルギー研究費を補助します。また、原発の安全性を向上させるために、原子力安全庁を設置し、監視を行います。

外務大臣：外交担当です。まず、領土問題については、粘り強い交渉をしたいと思えます。尖閣諸島問題では、国際司法裁判所に単独提訴します。中国の同意が得られなくても、国際的に日本の有利性が印象づけられ、その後の交渉に影響します。TPPについては、マニフェストにあるので省略します。

防衛大臣：我が党は、防衛力を下げずに防衛関係費の削減をめざします。4点に分けて説明します。第一は、国連のPKO分担金です。ポイントは現在の国連安全保障理事会常任理事国のアメリカを除く4カ国の合計より日本の分担金が多いこ

とです。このため、4カ国の水準まで分担金を下げます。第二は、日米地位協定の改定です。犯罪を犯した米兵の不逮捕、裁判権が認められないなどを改定し、基地周辺の負担を減らします。第三に、在日米軍駐留経費の削減です。4000億円に近い「思いやり予算」を半分程度にカットします。四点目は、「防衛費GDP 1%枠」の復活です。1976年の三木内閣による「防衛費GDP 1%枠」を復活させ、今後の防衛費の増大を防ぎます。

党首：我が党は、ムダな予算を削減し、「小さな政府」をめざします。現在、コストに見合わない仕事が多く見られますので、国家の重点化効率化を図ります。また、少子化対策に重点を置き、それをテコに景気を回復し需要を増大させ、さらに規制緩和による経済活性化をめざします。

**【作戦タイム】 X党がY党への質問を考える。**

**【質疑応答】 X党がY党に質問し、Y党の担当大臣等が回答する。**

質問：マニフェストに、「30年後を見据えた少子化対策」とありますが、30年後は景気が良くなっているのですか？

党首：人口増加の予想図がここに示されています(みんなに示す)。フランスの合計特殊出生率2.0%を見做ったとして、2035年頃に緩やかな人口増が達成できると考えています。

質問：今すぐの景気対策はないのですか？

経産大臣：我が党の主張は「小さな政府」ですから、積極的に打つことはありません。

質問：現在の不景気を放っておいて、将来良くなるとの見通しがあるのですか？

経産大臣：全体の予算削減を行いながら、これまで通りの景気対策は行っていきます。

質問：マニフェストに、中・長期的にプライマリー・バランス(基礎的財政収支)を黒字にすると書いてありますが、予算を削減するということですね？

財務大臣：はい。

質問：現在の予算では、国債費を除くと71兆円になります。プライマリー・バランスを考えると、約23兆円もの歳入不足が出ます。それをどのように黒字にするのですか？

財務大臣：1年間では無理です。我が党は、いますぐプライマリー・バランスを黒字にするといっているのではありません。かつての日本は、国債に頼っていなかった時期があり、そこに戻ろうとしているのです。その時期に向かって、財政構造を変えていくつもりです。

質問：どのくらいかかるのですか？

財務大臣：長期間の視点です。

質問：景気対策費は減らさないといっていました、その予算を減らさないということは、財源を減らすということと矛盾しませんか？

財務大臣：中小企業支援とか、必要性のある景気対策は続けていきます。

質問：では、具体的にカットする事業はどのようなものですか？

財務大臣：農水、エネルギー、防衛費で合計……。

質問：もう結構です。少子化大臣に質問です。少子化対策ですが、「出会いの創造」と言っていました、もともと若い人が少ない地域では「出会い」そのものが見つからないのではないですか？

少子化大臣：確かに限界はあると思いますが、地方のことは地方が一番分かっているはずですので、地方に委託します。私たちは「小さな政府」をめざしますので、お願いするのが筋道です。

質問：地域に任せたとしても、若者の数そのものに差がありますよね。

少子化大臣：それはある程度あります。

質問：それでは、「小さな政府」では限界があるのではありませんか？

少子化大臣：限界は認めますが、政府が実施するより地方の方が実態を分かっていること、さらに効率が良くなるはずなのです。そこがポイントです。

質問：原発対策費やエネルギー対策費を削ると言っていました、どこを減らすのですか？

エネ大臣：エコに関する事業を減らし、また、復興費で復興以外に使われている予算が5000億円ありますので、それを削ります。合わせて5500億円ほど減らせると思います。それを、新エネルギーの開発にまわしたりして、エネルギー対策を行っていきたいと思っています。

質問：原発はいつやめるのですか？

エネ大臣：具体的には決まっています。新エネルギーの研究は発展途上で、代替の先が見えていません。

質問：およそでも言えますか？

エネ大臣：言えません。

質問：Y党は「小さな政府」ですよね。ですからマニフェストには、ムダな事業は削減し、他に任せると書いてありますが、具体的に、国から民間に仕事を移管しないのはなぜですか？

党首：郵便、鉄道、電話、高速道路など、それまで国が行っていたものを、1980年代からどんどん民営化してきました。そして、小泉政権あたりからさらに促進されて、特殊法人なども見直されてきており、もう民営化という分野はほとんどなくなったと思います。そのため、我が党の政策は、規制緩和と事業削減が中心となっています。

質問：農水大臣へ質問ですが、農林水産のマニフェストにはTPPしか書いてませんが、それ以外の農水の仕事は現状維持なのでしょうか？

農水大臣：マニフェストには書きませんでした。農業などへの国の働きかけを仕分けして、国家が行うべきものとしなくて良いものを分けていこうと考えています。

質問：農家の高齢化や食糧自給率は問題としないのですか？

農水大臣：いえ、我が党の中心政策は「少子化対策」なので、それがうまくいけば農業従業者の問題は解決するはずで。

質問：具体的な根拠は？

農水大臣：特にありません。

質問：少子化対策で家族手当と子供手当を支給するようですが、効果はありますか？

少子化大臣：あります。

質問：現行の制度とあまり変わらないようですが……。

少子化大臣：子供手当は、3歳未満の経済的にも一番大変なときに支給します。家族手当は、子供の数が多くなると増額されるものなので、子供の数を増やす効果があります。

**X党の質問終了**

## 参考資料2 「ジャッジによる講評例」

大変よい議論だったと思います。

「Y党」は、マニフェストが分かりやすかったですね。なにが問題で、どのような対策を取るのかがすっきりと分かりやすかったです。特に1枚目は、景気、雇用、財政問題など、一番大きな点を挙げ、そこを詳しくプロセスを挙げて説明しているという点が非常に分かりやすかったですね。

「X党」は、それに比べるとですがマニフェストの書き方や項目の順番が少し弱いと感じます。「Y党」が、小さな政府の強みを強調するようなマニフェストの書き方をしていたので、「X党」は、「もっとここに財源をかけないとこういう問題が起きるんだ」と、個別の争点を際立たせる証拠や議論を出していくと良かったと思います。

政策の議論をするときは、「問題があって、政策があって、効果が出る」という「タテ」のつながり・議論と、「政策間」のつながり、これを「ヨコ」のつながりと呼ぼうと思いますが、この「タテ」と「ヨコ」のバランスが取れていないとダメだと思うのです。その意味で、「X党」は、「ヨコ」の争点をもう少し仕掛ければ良かったと思います。

「予算」という争点では、「Y党」の議論が強かったですね。「Y党」は、予算の大枠をつくってから政策や争点をはめ込んでいっていました。それに対して、「X党」は予算の大枠がはっきりしなかったため、政策の影響や効果に疑問が出たと思います。やはり、政策論議なので、歳入歳出をはっきり示さないといけませんね。

次に「タテ」のつながりですが、政策そのものはよいのだが、果たして効果があるのか？予算をかけても効果が期待できるかという議論です。

その点では、「Y党」から良い質問が出ていました。Y党から、法人税引き下げの質問が出て、別の政策をとると、その部分で企業の負担が増えるのではないかと、その負担割合と法人税引き下げとどちらが効果があるのか？と議論しました。確かに法人税引き下げは景気により影響を与えるとは誰でも分かる。しかし、それで効果は出るのかについての答えに窮していましたね。どれだけ法人税負担を減らすと、どのような効果が生まれるかをもう少し詳しく見せると良かったと思います。

「Y党」が、消費税の引き上げ、法人税や所得税の引き上げは、どのような効果を生むのかとの質問をしました。それに対する「X党」の答えは良かったと思います。年金

の保険料は税金に置き換えたのだから、その分家計の支出は楽になっているはずですよ。つまり、年金と消費税を絡めて回答したことは良かったと思います。このように、争点同士のつながりを重視していくと全体の枠組みが見えてくるので、こちら側にも争点がキチンと見えてくるようになります。

話は変わりますが、人間が理解できる争点は7つくらいだと言われています。「マジック7」と呼ぶのだそうです。そうだとしたら、争点を関連づけて7つ程度に絞って議論すると良いでしょう。その意味で、争点を関連づける必要性があります。

「Y党」の政策で良かったのは、「少子化対策」という争点をドーンと大きく出してきて、30年後には結果が出てくると主張しました。質問で、「いまの景気対策はどうするのか」と聞かれても、「対策はいろいろやっている。だからいまやるべきことは、少子化対策と国債を減らすことだ」とはっきり答えられるのでしょうか。ただし、これ以上国債が増えると、国民の痛みがどのくらい増えるかをもっとアピールして欲しかった。そうすると、だからきつけれど、いま痛みを耐えなくてはいけない、ということをもっと言えたと思います。

## 付録：教材1の哲学カフェについて

哲学カフェはイメージがつかみにくいところがありますので、教材執筆者が関わっている岡山大学まちなかキャンパス城下ステーションでの実践の概要を紹介します。まちなかキャンパスは、岡山大学地域総合研究センターとNPO法人まちづくり推進機構岡山が共同で運営しているものです。

話し合いのテーマは、カフェフィロの松川絵里さんと岡山大学地域総合研究センターの岩淵泰さん、そして哲学カフェ参加者から提案されます。これまで、岡山市内で起こる選挙、大型ショッピングモールの開店、国際会議、時事問題、参加者の悩みや気づいたことなど、様々なトピックが取り上げられました。大学としては、義務的ではなく、ゆったり、ワクワクするような話し合いの場を続けていくことが、岡山のまちづくりに貢献することだと考えており、学生や若者が中心となって岡山全体に対話の文化を根づかせることを目的にしています。岡山市民がまちづくりを考える機会を提供することにもなります。

顕著な特徴として、参加者の多様性が挙げられます。参加者数は10人前後と多くはないものの、年齢層が20代～70代と幅広く、男女比のバランスもほぼ半々。会社員、学校の先生、医療関係者、NPO職員、主婦、学生、フリーター、定年退職した人など様々な立場、職業の人が集まります。これは、街中のカルチャーゾーンという立地と、テーマの多彩さによるものでしょう。参加者の多様性は、様々な人々の共生をめざすまちづくりにおいて重要な要素です。

興味深い変化として、哲学カフェに参加した若者が、中心市街地で様々な対話イベントを開催していることが挙げられます。主権者教育で重要な考える力や語る力を身につける若者が増えており、まちづくりに貢献するようになっています。

これまで開催した哲学カフェのテーマ一覧

2012年

「異文化カフェ?カリナさんからみた日本の保育?」「働きがいが必要か?」

2013年

「本当に反省してる?」「義理チョコって必要?」「安心とは何か?」「愚痴を言うのは悪いこと?」「次世代に伝えたいこと」「能力によって選挙権を制限されることは許され

るか?」「憧れと模倣(岡山市オリエント美術館と共同主催)」「家族サービス」

「譲れないこと」「記念日」「女らしさ?男らしさ?自分らしさ?」

2014年

「記憶はフレッシュなほうがいいか?」「生きることは無条件によいことか?」「ひとりがいい?」「旅をする」「人はなぜ恋をするのか?」「人はなぜ怒るのか?」「相談するとはどういうことか?」「お金の使い方」「ショッピング」

2015年

「ワークライフバランス」「チームを応援するってどういうこと?」「質問」「住みたいまち」「偉人とは何か?」「まちと公共性」「みんなちがって、みんないい?」「学校とは何か?」「アートと公共性」

2016年

「選ぶ人/選ばれる人」



## 教材執筆者の紹介

### 松川 絵里(まつかわ えり)さん・・・教材1

- ・カフェフィロ代表
- ・大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任研究員
- ・大阪大学大学院在学中に育児中の母親を対象とする哲学カフェをはじめ、その後、岡山など各地で哲学カフェを実践、サポートしている。また、看護師向けの対話研修、子ども対象の哲学ワークショップなどのプログラム開発に携わる。
- ・編著として『哲学カフェのつくりかた』(大阪大学出版会)、共訳書として『中学生からの対話する哲学教室』(玉川大学出版部)がある。

### 岩淵 泰(いわぶち やすし)さん・・・教材1

- ・岡山大学地域総合研究センター(AGORA)助教
- ・熊本大学修了(博士：公共政策)。ボルドー政治学院留学(フランス)。カリフォルニア大学バークレー校都市地域開発研究所客員研究員を経て現職。
- ・専門はフランスの地方分権、参加民主主義論、まちづくり。都市と大学によるまちづくり活動に取り組む。
- ・大学地域総合研究センターまちなかキャンパス公開講座で、哲学カフェを運営。
- ・岡山市明るい選挙推進協議会会長(2015年～)

### 原田 謙介(はらだ けんすけ)さん・・・教材2

- ・NPO法人YouthCreate代表
- ・内閣府子ども・若者育成支援推進点検・評価会議委員
- ・岡山県若者参画促進アドバイザー
- ・各地でワークショップ、講演等の講師を務める。
- ・総務省と文部科学省による副教材『私たちが拓く日本の未来』の作成協力者。
- ・学生時代に学生団体ivoteを創設し、初代代表を務める。

**杉浦 真理(すぎうら しんり)さん・・・教材3**

- ・立命館宇治中学校高等学校教諭(京都府宇治市)
- ・白梅学園高等学校勤務を経て、2002年から現職。大阪教育大学大学院教育学修士
- ・社会科教師としてさまざまな手法のシティズンシップ教育の授業実践を持つ。
- ・日本シティズンシップ教育フォーラム運営委員
- ・全国民主主義教育研究会機関紙編集長
- ・総務省と文部科学省による副教材『私たちが拓く日本の未来』の作成協力者。
- ・各地で主権者教育に関する講演多数。
- ・著書に『シティズンシップ教育のすすめ』(法律文化社)、『主権者を育てる模擬投票』(きょういくネット)などがある。

**藤井 剛(ふじい つよし)さん・・・教材4**

- ・明治大学文学部特任教授(2015年～)
- ・専門は教育学、教科教育学、教育方法学
- ・30年間以上にわたり高校公民科教員、主権者教育に関する豊富な授業実践を持つ。
- ・総務省と文部科学省による副教材『私たちが拓く日本の未来』の作成協力者。
- ・著書に『入門 社会・地歴・公民科教育』(梓出版社)、『とっておき授業 L I V E 集』(清水書院)がある。

